

私はどうしてよいか分からない位音楽が好きになり、もっと良く知りたいために音楽科に学士入学しました。そこでの幸せな日々を過すうちに、不思議なことに体も丈夫になり、学校を休むこともなくなりましたし、どんな授業でも、一時間のうちには何かしら学べるものがあることが分かりました。

かくして、音楽にあけくれています。ピアノが本当に好きなんだと実感したのはこの九月以来のことでした。ピアノが弾けなくて苦しんだ分だけ、或はそれ以上に、ピアノ音楽のよさが抗しがたい力となってはね返ってくるのです。

地理をやったということ

それでは地理をやった(いや通過した?)ことはどんな意味があったかと申しますと、私にとってそれは大きな影響力をもっています。大学を二度出るということは、あながち無駄でもない、劣等感をもつべき性質のものでもないということが分かりました。あたりを見まわすとそういう方が多いのを知って意を強くしました。地理と音楽とは全く関係のない分野ですが、人間が経験したことと全く無駄なことというのにはあり得ないと思います。学生時代にはあんなに分らなかった地理的なものの見方を今折りにふれてしているのです。物事の判断に規準があることは必要ですが、いつも一つの観点からのみ見ることは偏見となってあらわれることもあります。

そう思って、誘われれば時々巡検や調査の旅などにもお伴をさせて頂き、仕事でなく地理学にふれるのはとてもいい気持だと思っています。(8回生)

## オペレーター八カ月目

日比野 洋子

今この原稿を書いているのは12月1日で何を意味するかといえば、この原稿の〆切の翌日であり、(これから書いて大学に届けに行くのです)社会人になってちょうど八カ月目にあたる日なのです。

国際電話局のオペになってほぼ二カ月、仕事の内容も不十分ながら覚え、すでに後輩を迎えるにいたっています。女性ばかりの城ではさぞかし気苦労も多かろうと心配してくれる学友の声を後に、さもありませんと覚悟を決めて入社したのですが、居心地満点、かつ何年いても追い出される心配がなさそうなので当分腰を落ち着けそうです。

周囲はおなじ年ぐらいの女性がほとんどで、毎日ギャーギャーと騒いでいるので、とても職場の雰囲気とは言えず、むしろ学生時代の延長のような感じです。これらひらのオペ達の上に、四年目ぐら

いの姉様主任が数人とその上に母様課代と課長という構成の課が六つあり、六日制の輪番勤務をしています。朝出勤して夕方帰るという勤務ばかりでなく、夜勤や泊りもあるので不規則ですが、昼間に自分の時間が多いので、過ごし方によっては有意義な生活を送ることができるのですが……。

主な仕事の内容は日本発信の通話の受付と接続、日本着信の言語援助などです。欧米への通話は半自動といって、私達オペが直接相手の国の加入者へかけて接ぐ方式をとっており、ほとんど英語が通用するので苦勞しませんが、韓国や台湾はそれぞれ韓国語や中国語でないと、その場でガチャリと切られてしまいます。そこで片言ながら、ヨボセヨ、イルボン、トンギョイムニダなどとやっていますが、結構ネーネーと通じるのでうれしくなります。その反対に中国語は抑揚が難しく、我が中国語は今だ通じたことがありません。中国と言えば最近本土への通話が俄かに多くなり、新聞社が回線を奪いあっていますが、何分無線なので聞こえなかったり雑音が入ったりで、ますます混んでくるばかりです。この他に最近忙しかったのは例のニクソン声明の時で、不断は即時で接がるUSAへの通話が一時間も待合せを作ったほどです。まだ新米だったので、ミスをたくさんして冷汗をかかやら、疲れはてるやらで散々な目にありました。国際電話の場合、事件が起るとすぐには必ず新聞社の申し込みが入り、数分後には一般通話も忙がしくなるというのが普通です。

オペレーターという仕事は一度覚えてしまうと後は繰返して、創造性のない仕事ですので、目まぐるしく変る国際情勢を常に頭において、自分のやっていることに何か意味を見出し続けなければとてもやりきれない気持ちになります。先輩達は「意識を高いところにもってオペレーターとなったからには、せめて二か国語以上マスターせよ」といいます。私も私なりにこの八か月目の倦怠感のりこえるべく頑張らなくてはと思うこの頃です。

(19回生)



●新聞・雑誌・パンフづくりに  
企画編集・タイプ・オフセット印刷

あなた自身で  
とらえる小宇宙

ミニコミの世界

工芸社  
9 板橋区南町9番地  
5 5  
9 0  
・ 6  
5 4